

事業者や他地域との連携協定を積極的に結び防災に強いまちづくりを進めます。また、防災無線のデジタル化やITやAIの活用も検討し進めてまいります。最後に三項目は『未来』挑戦し創造することです。若い世代が急激に減少しているいま、最も重要なのは『雇用の創出』『子育て支援』『移住対策』をより充実させ魅力あるまちづくりに挑戦し創造していくことです。わが町では、合計特殊出生率¹⁾²⁾と非常に低い数値であり、主な少子化の原因は少母化であることからより効果的な政策を進め少子化に歯止めがかかるよう取り組んでまいります。北海道新幹線・道南いさりび鉄道を最大限に活かしたまちづくりを進めていくとともに、高規格幹線道路函館・江差自動車道(仮称)木古内インターチェンジ』が供用開始になることで木古内町の交通拠点としての役割はさらに重要なものとなります。供用開始のプラス効果は最大限に、マイナス効果は最小限になるよう取り組んでまいるとともに札幌・泉沢・釜谷の地域住民の声をしっかりと反映した地域づくりを進めてまいります。林業産業では、当町の森林面積は総面積の89%を占めており恵まれた森林資源を有しています。町有林の計画的な整備・道南エリアで森林認証を取得した道南スギの積極的なPRを始め業界全体のイメージ戦略に取り組み、雇用

の確保・森林機能の維持・保全を図ります。水産業では、『水産業元年』と位置づけ力強く政策を進めてまいります。町の漁業者は平均年齢70歳を超えており毎年廃業する漁業者が増え、20年間で10分の1になり今では組合員数が27人であります。密漁防止対策やウニ・アワビ・ナマコなどの種苗放流やカキの養殖漁業の推進のほか新たな助成制度新設を検討し、漁業の発展のため取り組んでまいります。農業では、ここ数年、農業後継者がUターンしていることから、農家戸数の減少に歯止めがかかりつつありますが、小規模農家の年齢は依然として高い状況であります。安定生産・安定供給に向けた取り組みを継続し、施設野菜の維持・拡大に向けた推進や農業用施設の改修及び維持管理に取り組んでまいります。

一次産業や商工業を支援・育成しながら、ふるさと納税や企業版ふるさと納税に力を入れ税収を増やします。それを財源とした『わくわくプロジェクト』で水道料金基本料金や家庭用ごみ袋の値下げを実行します。町民の皆さん一人ひとりに公平公正な行政サービスの提供、日々の生活の負担を減らすことを大切に考えます。

過去を変えることはできませんが今と未来は変えることができます。

3点の基本的な考えは、ぶれることなく一貫させながらも、より良いアイデアを生み出していくためにも、私の考え方だけではなくたくさんの方の力が結集したときに『活力あふれる木古内町』が誕生すると信じています。これこそが私が大切にしてきた『草の根』であります。

現在、人口についても財政についても大変厳しい状態にあるのかもしれませんが、しかし、厳しい現実から目を背けることなく勇敢に挑戦し町の再生発展のため、町民の皆さまの更なる幸せのため尽くしてまいります。

町が抱える課題に向き合い徹底した町民目線で一つずつ丁寧に『カタチ』にできるよう努めますので、町民の皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

大森前町長・大野前副町長が退任

大森町長は役場内で全職員を前に、『これまで20年間町長として過ごしてきました。木古内町は非常に伸びしろのあるまちです。さらに前進させるには職員の皆さんの力が必要です。新たなリーダーのもとで元気に頑張ってください』と挨拶した。

大野副町長は役場玄関前で全職員を前に、『これまで役場職員として39年間、副町長として7年間勤務して参りました。大変な業務もありましたが、職員の皆さんに支えられてきました。新しい町長を迎え住民と向き合って進めて欲しいと思います。』と挨拶した。



← 4月30日に副町長を退任した大野泰氏

→ 4月24日に町長を退任した大森伊佐緒氏